釧路市教育委員会　令和４年第１４回７月定例会会議録

１　日時：令和４年７月２６日（火）１３時３０分から１４時５０分まで
２　会場：釧路フィッシャーマンズワーフＭＯＯ　２階　教育委員会室
３　出席者
　　岡部義孝教育長
（教育委員）
　　山口隆委員、種村俊仁委員、松尾千穂委員、小出美貴子委員
（事務局）
　　齋藤学校教育部長、工藤生涯学習部長、大山教育指導参事、上野北陽高等学校校長、
　　早坂学校教育部次長、北澤北陽高等学校事務長、池田総務課長、冨田総括指導主事、
　　森教育政策主幹、澤口生涯学習部次長、島スポーツ課長、
４　議事録署名人　　山口委員、松尾委員
５　傍聴人数　　０人
６　提出案件

【公開案件】
議案第４２号　令和５年度釧路北陽高等学校教科用図書の採択について

報告事項
（１）釧路北陽高等学校の見学旅行の取扱いについて
（２）第５回タンチョウリーグの開催について
（３）学校の現状について

７　会議内容

【公開案件】

議案第４２号　令和５年度釧路北陽高等学校教科用図書の採択について

（上野北陽高等学校校長）

令和５年度釧路北陽高等学校教科用図書の採択について、説明する。

今年度からの単位制への移行、及び新学習指導要領の年次進行での実施に伴い、令和５年度の２年次の教科書は、すべて新規のものとなる。なお、資料の〇は来年度から科目名が新しくなるもの、◎は科目名の変更がないものである。

新学習指導要領では、社会の変化に対応し、生き抜くために必要な資質・能力を備えた子どもたちを育むため、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性など」の３つの柱からなる資質・能力の育成、向上を目指している。

２年次の教科書は、物事を広く深く見る力と考える力を養うことや、生徒の学習意欲を高める工夫など､新学習指導要領の目的を達成するために活用しやすい教科書であることから、採用したいと考えている。

このほか、１年次・３学年の教科書は、令和４年度と同じものである。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（岡部教育長）

義務教育では教育委員を含めた採択のための委員会を立ち上げて議論していくものである。北陽高校は、どのような過程でこれらの教科書を選んだのか教えてほしい。

（上野北陽高等学校校長）

教科ごとに必要な教科書を検討し、その案を取りまとめて、学校で決定したものをこちらにあげている。

（岡部教育長）

次回は、なぜこれらの教科書を選ぶことになったのか、という視点や理由を話していただきたい。

【公開案件】報告事項

（１）釧路北陽高等学校の見学旅行の取扱いについて

（北澤北陽高等学校事務長）

釧路北陽高等学校の見学旅行の取扱いについて、報告する。

５月の定例教育委員会において、２学年の台湾への見学旅行については、台湾の入国規制が解除される見通しが立たないことから､国内の旅行に変更することで承認いただいており、この度、１１月２０日（日）から２４日（木）までの４泊５日の日程で、行先を京都、奈良、

東京として計画を進めることとした。
　今後計画を進めていく中で、感染状況によっては更なる変更を検討することも考えられるが、感染状況を慎重に見極めながら、生徒の安全を最優先の上、旅行行程を組んでいきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（松尾委員）
　台湾に行けていないことは仕方がなく、京都や奈良など行く場所としての問題はないが、期日に関してはどのようになるかわからないので不安はある。
（山口委員）
　コロナ等により見学旅行で台湾に行けていない状況が続いているが、この間も台湾との繋がりは途切れずに続いているのか。
（上野北陽高等学校校長）
　台湾にただ行くだけではなく、時間をかけて交流したうえで台湾に行って実際に会うのが理想であるが、私や担当者はやり取りを続けている一方で、学生同士の交流は途切れてしまっている。そのため、新一年次には新たな交流を始めてもらい、事前に交流があったうえでの見学旅行をさせてあげたいと考えている。

【公開案件】報告事項
（２）第５回タンチョウリーグの開催について

(島スポーツ課長)
　第５回タンチョウリーグの開催について報告する。
　第５回タンチョウリーグが、８月５日から２０日までの日程で開催される。この「タンチョウリーグ」は、平成２９年に釧路市民球場の大規模改修工事が終了したことを契機として、亜細亜大学硬式野球部が中心となり、強豪社会人チームや道内外の大学チームのほか、プロ野球チームも参加する、全国でも注目を集めるオープン戦となっており、ここに参加する選手から、毎年多くのプロ野球選手が生まれている。
　第５回の記念大会となった、この度の「タンチョウリーグ」では、プロ野球チームの広島東洋カープ２軍が初参加するほか、福岡ソフトバンクホークス３軍、今年の第７１回全日本大学野球選手権大会で２０年ぶり５度目の優勝を果たした亜細亜大学、日本を代表する社会人チームのトヨタ自動車、ホンダ、ＪＲ東日本など１６チーム、選手・スタッフおよそ６４０名が参加し、ウインドヒルひがし北海道スタジアム（釧路市民球場）、帯広の森野球場、厚岸町、幕別町の４会場で試合が行われる。
　昨年からの取り組みとして実施した、亜細亜大学が所有するリモート中継システムを使用した、インターネット中継による無料配信を今年も予定しており、釧路市で開催される試合

が配信される。イニング間では釧路市の観光をＰＲする動画の配信を予定しており、釧路の魅力が全国に配信されることで、観光振興にも繋がるものと考えている。
　また、すべての試合は、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底して行われるものである。
　なお、現時点では、入場料を無料とする有観客を予定しており、インターネット中継とともに、優れたプレーを多くの市民、子供たちに見ていただきたいと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)
　帯広地区を拠点にしてタンチョウリーグに参加しているチームを、釧路地区を拠点にタンチョウリーグに参加してもらうことはキャパシティ的に可能であるのか。
(島スポーツ課長)
　年々、タンチョウリーグへの参加チームが増えており、釧路のみでは回しきれないため、帯広や厚岸、幕別にも会場を設けて試合数をこなせるようにしている。
(山口委員)
　同じ時期に複数チームが釧路市内で合宿をするのは厳しいということか。
(工藤生涯学習部長)
　参加チーム数に対して釧路市のキャパシティでは足りないため、ほかの地域も使っている。そのため、大会期間を延ばしてチームの入り時期をずらすなどすれば、誘致することは可能であるが、現状の日程では難しい。

【公開案件】報告事項
（３）学校の現状について

（大山教育指導参事）
　コロナの感染者数が増加してきており、夏休み明けが心配である。マスクの着用も緩和され、各学校では場面・場面での指導が必要になるなど、今まで以上にきめ細かい指導が必要になる。２学期以降の感染拡大による臨時休校など、不確実な中での学校経営になることが予想される。加えて、校長先生方には学校経営の見直しと、２学期に向けての作戦を立てるようお願いした。
　１ 次訪問が終わった。ある中学校の取組みを紹介させていただいた。教育長が学校訪問から帰ってきて、中学校としては一番授業が良かったと評価した学校である。一次訪問では、先生方から「校長と同じベクトルを向いて仕事をしています」との発言があり、各担当者からの説明でもそのことがうなずける内容であった。授業参観では、すべての先生が授業改善に前向きで、「釧路市授業スタンダード」に基づいて授業を変えようとしていることがわかった。特に生徒と先生の関係が良く、これまでの高圧的な教員の態度や一方的な教員の説明で

終始する授業はなかった。

今回、この学校を紹介したのは、中学校でもやればできるということを、他の校長先生にわかっていただくためである。コロナの影響などで学校経営が上手くできない言い訳を探しやすい状況にある中、この校長先生は出来ない理由を探すのではなく、出来ることを探して先生方の意識を変えながら、経営改善を進めていた。この一次訪問の結果を基に２学期の指導のあり方を検討することになる。

釧路市教育推進基本計画について、５年前と同様に校長会の意見が求められるため、協力をお願いした。また、計画策定に当たっての重点課題である「学力」「不登校」「特別支援」の３点と、今日的な課題である「デジタル化」「小中学校のあり方」を中心に議論することになると伝えている。現行の基本計画との違いは「評価」にある。これまでのように評価自体の信頼度が落ちると、課題が明確にならないので、評価対象、評価内容、評価結果を明確にしたいと考えている。校長先生方には、今回示される数値目標は各学校が目指す数値目標として、しっかり意識していくように伝えている。

教育局の計画訪問について。今回の重点は、①小中ジョイントの一環として校区内の先生方に授業参観していただく。校長間で参加体制を整えるようお願いしている。②公開授業は校内研修にかかわる授業内容にしていただく。③外部からの訪問として服装から研究協議に至るまで校長としての指導をお願いした。

「エンジン０２」や「小中連携研修」「教職を目指す高校生のインターシップ」についてお礼とお願いをした。

最後に大館市教育委員会の高橋教育長の特別講演についてお願いをした。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

教育推進基本計画の数値目標について、今までは教育委員会の定めた数値目標に対して各学校はどの程度達成できたかという、教育委員会の基準に基づく目標であったが、これからは各学校が目指す数値目標に変更になるということか。

（大山教育指導参事）

各学校で設定するわけではなく、釧路市が設定した数値目標が各学校の数値目標になるということである。各学校で目標を達成できていないためであることから、まずは各学校で数値目標を達成してくださいという話である。

（冨田総括指導主事）

これまでは別の調査から数値を取っている部分もあったが、学校に対して数値目標の達成を自分事に考えてもらう働きかけとして、これからは、自分の学校の達成度合いを意識してもらった評価を、毎年度末に取ろうというものである。

（山口委員）

目標達成にどんな手立てが必要かという戦略を各学校の先生で共有して、それに向けた努

力を行って最終的に教育委員会にあげていくということか。各学校の意識や取組みが変わってくる。各学校で目標達成度合いが違い、学校ごとに取り組みを変えなくてはいけないため、現状を自覚してもらったうえで、取組みを実施してもらうという認識でよいのか。

（大山教育指導参事）

その認識でよい。

（岡部教育長）

各学校で達成しない限り、釧路市全体で目標達成することはない。そのため、今まで以上に釧路市の目標は、自分たちの学校での目標でもあることを自覚してもらうという受け止めでよいのか。

（大山教育指導参事）

その認識、受け止めで良い。評価する際にしっかり自分の学校の状況を認識させるということである。

（種村委員）

今回取組みを評価されていた中学校について、良い方向に向かっていった一番の要因は何だと考えるか。

（大山教育指導参事）

校長先生にリーダーシップがあり、生徒一人一人を大切にしなくてはならないという話が先生方へ浸透したのだと思う。色々な調査の中でも、生徒が先生を好いており、先生も生徒を好いているというデータが出ており、先生方自身も１番変化したところだと言っていた。その結果、授業が楽しくなり、先生の質問に答えるようにもなっていき、顔を上げて授業を聞くようになっていったようである。

（岡部教育長）

その学校ではすべての先生の授業が、対話的であった。一方、他の中学校では対話的な授業はあまり見られず、今まで通りの、先生が教壇から降りない講義型の授業をしていて残念だった。学校全体で対話的な学びをやろうという意識が見えたので、結果がついてくるのではないかと思う。

（小出委員）

校長先生のリーダーシップという点で、幣舞中学校で行われたブックフェスティバルに手伝いで参加した。図書館ではなく中学校が中心に行っており、内容も素晴らしかった。子供たちの頑張りのほか、校長先生と先生方が同じ方向を向いて協力したことで成功したのだと思う。学校が一つにまとまる姿勢がブックフェスで見えた気がするので、ほかの中学校でも校長先生と先生の絆の様なものが広がっていってほしい。

（大山教育指導参事）

これまでは、今回のように新年度になってからブックフェスティバル開催の声をかけても、この時期に言われても出来ないという回答が多かったが、今回の幣舞中学校では教務主任と国語の先生が中心になって企画を一緒に進めて実現に至った。年度途中であっても、やる気があれば良い企画ができるのだと幣舞中学校は証明してくれた。校長先生の思いがほかの先

生にも伝わり、反対する先生がいても学校では大きく声を上げられなくなっている。校長先生、教頭先生、教務主任、そして先生方がうまく動いている例ではないかと感じた。

（山口委員）

中学校は教科担任制であるため、先生によって授業スタイルが変わることがあったが、全ての先生のどの授業でも対話的な授業で学べるとなれば、生徒たちは聞く力も含めて、トータルとして磨かれる部分が大きいと思う。早く成果に結びつくよう期待している。

（岡部教育長）

大館市では、全先生が対話的な授業スタイルなのはもちろんのこと、教科を問わず板書の構成がほとんど同じであると言っており、衝撃を受けるとともに、釧路市がそのレベルに達するのは、まだまだだなと感じた。